

# OPEN CAMPUS 2013

犬山キャンパス

経済学部、経営学部、法学部  
人間生活科学部 教育保育学科・管理栄養学科  
短期大学部 保育科

7/27(土)・28(日)

8/24(土)・25(日)

9/29(日)・10/12(土)・13(日)

11/17(日)

※詳細はホームページをご覧ください。

オープンキャンパス2013  
入退場自由・予約不要

大学祭(名経祭)と  
同時開催



## New 丼家オープン

ごはんを食べよう! 安くてオイシイ「丼プロジェクト」

4月から6号館の学生ホールに「丼家」がオープンしました。日替わり丼に小鉢とみそ汁がついて何と300円!! 安くてオイシイと毎日完売。ごはんはこだわりの胚芽米で毎日炊きたてを提供しています。食材も「地元野菜・自然調味料」を使用した手づくりのこだわり「元気パワーはごはんから!」と、ごはんを食べよう「丼プロジェクト」で学生たちの胃袋を満たしています。



この日は「とろろ玉親子丼」と  
3種の野菜のおひたし&みそ汁

※丼家は、株式会社  
元気べんとう(就労  
継続支援A型事業  
所)が手がける、人に  
やさしい食材を使っ  
てオイシイ丼を提供  
しています。

## いつでも快適インターネット! スマートフォンサイト

5月より、オープンキャンパス・入試情報・資料請求・新着情報・CAMPUS TODAY・交通アクセスのコンテンツをスマートフォンサイトにオープンしました。

右のQRコードから、ぜひご利用ください。



## 「健康レシピリレー」がホームページに!!

4月より「広報いぬやま」の健康レシピリレーを管理栄養学科の学生が担当しています。

毎月のレシピに、調理のヒントやポイント、健康お役立ち情報を加えた内容を学科ホームページに掲載しています。以下のサイトでご覧いただけます。



<http://www.nagoya-ku.ac.jp/department/human/nutrition/>

## 後援会総会・教育懇談会

6月8日(土)、本学講堂において「後援会総会」が開催されました。柴田後援会会長の挨拶にはじまり、佐々木学長の挨拶、評議事項報告に続いて柴田会長の留任が報告され、最後に末岡理事長よりお礼の言葉が述べられました。

その後、「市民開放講座」が開講され、昼食をはさんで午後からはコミュニティプラザに場所を変えて「教育懇談会」も実施されました。保護者の皆様との個別懇談により、ご子息・ご息女の学業、学生生活、進路先といったあらゆる相談にお答えし、大学に対する要望などもお聞きしました。



柴田後援会会長



大学の近況についての報告を聞く出席者



末岡理事長



保護者との個別懇談

MEIKEI

あなたのご意見をお聞かせください

「名経大通信」Vol.45について、ご意見や感想などございましたら、企画広報室(右記連絡先)までお聞かせください。

MEIKEI 名経大通信 Vol.45

平成25年7月16日発行

名古屋経済大学・短期大学部 〒484-8604 犬山市久保61-1 TEL 0568-67-0511(代) http://www.nagoya-ku.ac.jp/

企画広報室 TEL 0568-67-0624 FAX 0568-67-0724  
※本誌掲載の定率・写真・イラストなどの無断複製・転載・転写を禁じます。

# MEIKEI

名経大通信 Vol.45  
2013.7.16  
名古屋経済大学  
名古屋経済大学短期大学部



# 体験型プロジェクト スタート》》

## 体験型プロジェクトで自分を変える

まずは自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の足を使って歩き、自分の肌で感じ、そしてその自分の五感で感じ取ったことを大学での学びに生かしてもらおうと、今年度から「体験型プロジェクト」が始まりました。さまざまな経験をしてもらうため、16もの個性的なプログラムが用意されました。

プログラムの内容は、大学のある犬山のことをもっと深く知ってもらうこと、地域との関わりをもっと深めることをテーマにしたものが中心となっています。

### プロジェクトの内容

- 通学路竹林の整備
- 学内農地の農産物体験(2回開講)
- 地域の食材を知る
- 名経大の廃棄物を知る
- 学内外の環境保全
- 名経大の水を知る
- 犬山の観光戦略を考える
- 下校時の見守り支援
- 安全マップ作りのための児童との町歩き
- 工業都市としての犬山を知る
- 囲碁に学ぶかけひき(戦略)(2回開講)
- 将棋に学ぶかけひき(戦略)
- 企業と共に考える!若者とクルマと今
- 料理体験
- ラッピング体験
- 楽田入会地の歴史を知る



### 新入生オリエンテーションでガイダンスを実施

「体験型プロジェクト」のガイダンスが、4月4日(木)に開催されました。興味津々の面持ちで早くから講義室に集まった新入生たちは、経営学部の中西昌武教授から「体験プロジェクト」の概要についてのガイダンスを聴講。プロジェクトを使って、「通学路竹林の整備」や「犬山の観光戦略を考える」など、16種類18プランにわたるプロジェクトの内容がわかりやすく説明され、熱心にメモを取る新入生の姿も見受けられました。

その後、登録申請紙に、希望するプロジェクトの第1希望から第5希望までを記入して提出し、ガイダンスは無事に終了。「体験プロジェクト」は、前期



このプロジェクトは学生だけでなく担当する教員にとっても学びの場となっています。学生と共に新しいことに挑戦することで、これまではなかった教員と学生の新しい関係も生まれそうです。

“名経大は変わりつづけます”、その原動力となるのがこの「体験型プロジェクト」です。今後の展開にどうぞご期待ください。



の前半(4~5月)と後半(6~7月)、後期の前半(10~11月)と後半(12~1月)の4クォーターに分かれて実施される予定です。



新入生に熱く語りかけるプロジェクトリーダー-中西教授

## 第1クォーターを振り返って

第1クォーターの終了した翌週、さっそく関係者が集まり、プロジェクトの内容について振り返りを行いました。まず、それぞれのプロジェクトの担当者から簡単な報告を受けてから質疑応答を行いました。

各プロジェクトが最後の授業で実施したアンケートの結果からは、プロジェクトの体験を“学び”にまで持っていくことの難しさが浮き彫りになりました。学生からは、もっとたくさん受講できるようにしてほしいという要望が

多く出ていることもわかりました。

短期集中7週間という時間が短すぎるという意見も多く、「犬山の観光戦略を考える」では、授業が終了しても活動を継続していく予定であることが報告されました。

今後の新しい展開を予感させる総括となりました。

### 「学内農地の農産物体験」

この授業は、もともと経済学部の特別研究室のメンバーが数年前から取り組んでいる有機農業のプロジェクトに参加する形で行われました。そのため、担当の先生は3人いましたが、特別研究室のメンバーが学生に学内農地の趣旨を説明し、農地での作業を指導することとなりました。集まってくれた学生は男子7名・女子3名。土を耕し、石を取り除き、畝を作り、ルッコラの苗やジャガイモの種芋を植え、雑草を防ぐシートをかけ、土壌改良のために牡蠣殻の粉を混ぜ込む作業などを行いました。耕耘機もメンバー全員が体験しました。季節が季節だけに

基本的作業は草刈りで、毎回半分はこの作業に当てられました。暑さが厳しくなっていく中、学生たちはブツブツ言いながらも、がんばって最後までやり通してくれました。しかし、いちばん楽しんでいたのは学生と一緒に作業をした先生たちだったかも知れません。(経営学部 谷川毅教授)



畑の土の酸性度をチェック

### 有機野菜に興味を持ちました

はじめは楽そうな授業だと思っていたのですが、回を重ねる度にとっても大変だと感じました。草刈りをはじめとして根気のいる作業が多く、少ない時間の中でも、農業の大変さを学ぶことができました。日常生活の中でも有機農業についてもっと考えてみたい。スーパーで野菜を買う時には、ちょっと気をつけてみたいと思います。

経営学部 1年 城山 拓也さん

### 達成感を感じた農業体験

農業はやってみると意外と難しいと思いました。しかし、自分の植えたものが成長しているのを見ると、「疲れた」とか「暑い」という気持ちはすべてなくなってしまいました。そして、最後には達成感を感じることができました。

この経験はきっと将来、自分のために役立つと思います。先生方と一緒に作業ができたことも、とても楽しく感じました。

経営学部 1年 李 紅岩さん

### 野菜を育ててみたい

有機農業に本格的に取り組んだのは、今回が初めてでした。草刈りや石取りの作業が中心で、つまらなくなることもありましたが、先輩の説明を聞いて、それがどんなに大切なことがわかりました。この授業のおかげで農業が好きになったような気がします。野菜はあまり好きではなく、まずいと言いつつ食べていましたが、今では感謝して美味しく食べることができます。これからは親がやっている自宅の畑を手伝って、野菜を育てたいと思います。

経済学部 1年 山岸 祐輝さん



耕耘機を初体験



ジャガイモの種芋を植える



## 平成24年度 学内奨学金支給者表彰

4月17日(水)と19日(金)、犬山キャンパスと名駅サテライトキャンパスにおいて、平成24年度 学内奨学金支給者の表彰式が執り行われました。学業成績優秀者 14名、学術・文化優秀者として、初めて「MOS世界学生大会2012」で堂々の15位を獲得した経営学部の仲村力也さんが表彰されました。学長より祝福の言葉が述べられ、式に集まった教員からもあたたかい祝福の拍手が送られました。皆さんには、日頃のたゆまぬ努力を讃えて奨学金が授与されました。



賞状を手に笑顔で記念撮影に取まる鳥居さん

### 学業成績優秀者

経済学部	2年	高木 直人 さん	誠信高等学校(愛知県)出身
	3年	伊藤 太一 さん	清林館高等学校(愛知県)出身
	4年	大澤 清 さん	滝高等学校(愛知県)出身
経営学部	2年	西田 賢司 さん	石川県立小松明峰高等学校出身
	3年	張 雯雯 さん	ECC日本語学院出身
	4年	八代 法子 さん	岐阜県立岐阜総合学園高等学校出身
法学部	2年	尾崎 文成 さん	国立鳥羽商船高等専門学校出身
	3年	木股 義貴 さん	中京高等学校(岐阜県)出身
	4年	古知屋 奈央 さん	名古屋経済大学高蔵高等学校(愛知県)出身
人間生活科学部	2年	本城 絵里 さん	光ヶ丘女子高等学校(愛知県)出身
	3年	橋本 結依 さん	名古屋経済大学高蔵高等学校(愛知県)出身
	4年	小島 由香恵 さん	岐阜県立東濃実業高等学校出身
短期大学部 保育科	2年	服部 生歩 さん	愛知県立春日井西高等学校出身
キャリアデザイン学科	2年	鳥居 美紀 さん	岐阜県立東濃実業高等学校出身

### 学術・文化優秀者

経営学部	3年	仲村 力也 さん	岐阜県立東濃実業高等学校出身
------	----	----------	----------------



全員で記念撮影

## MOS世界学生大会2013

### 日本大会で、西野さんが5位入賞!

6月17日(月)、東京国際フォーラムで「MOS世界学生大会2013」日本大会の表彰式が開催されました。経営学部2年 西野厚仁さんは、大学・短期大学のワード部門において第5位に入賞し、表彰状が授与されました。

昨年の経営学部 仲村力也さん、森智史さんに続き2年連続、本学で3人目の上位入賞となりました。

今大会は、国内から延べ4万5千人の学生がエントリーし、大学・短期大学部門、専門学校部門、高等学校・高等専門学校・高等専修学校の3つの部門から上位20人が選出されました。

※MOS(マイクロソフト オフィス スペシャリスト)  
マイクロソフトが認定するMicrosoft Office製品に関する国際資格。試験は、すべて実技試験によって実施され、アプリケーションを使い、与えられた課題を実行できることを判定される。アプリケーション全般の知識、実技のスピード、正確さが要求される。

### 次は、エクセル部門で世界大会出場をめざしたい

日本大会ワード2007部門で5位入賞の知らせを聞いた時、大変うれしかった反面、ちょっと悔しさもありました。「エントリーしたからには、世界大会に出たい」という気持ちがあったからです。次回はエクセルの試験を受ける予定なので、現在、世界大会出場を目標に練習しています。中学時代からパソコンに興味があり、中学・高校の時にいくつか情報系の資格を取りました。今回、受賞できたことで自信がついたので、今後もさまざまな試験に積極的にチャレンジし、自分のものにしたいと思っています。

また、Officeソフトだけに限らず、IT全般についての知識を身につけるとともに、今回のような経験を積み重ね、将来に生かしていきたいと思っています。

経営学部 2年 西野 厚仁さん  
名古屋市立名古屋商業高等学校出身

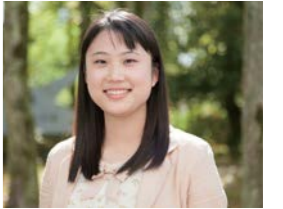


## 平成25年度 育英奨学生

「育英奨学生」(公益財団法人大幸財団)に応募した人間生活科学部 管理栄養学科の小島由香恵さんは、日頃の学業成績が優秀であることが認められ、時代に対応する優秀な人材として愛知県内約20名の一人として「育英奨学生」に選ばれました。

身につけた知識や技能を社会のために役立てたい  
私は管理栄養士国家試験の勉強とともに、栄養関連の資格取得に挑戦しています。また、就職活動をする中で、ビジネスマナーやパソコン

の技能を身につけておく必要を感じ、そのための勉強や資格取得にも力を入れたいと考えています。今回は、自身の目標を達成するためのチャンスをいただけたと思っています。残りの学生生活を立派な社会人になるための準備期間として充実したものにし、身につけた知識や技能を人や社会のために役立てたいです。



人間生活科学部 管理栄養学科 4年 小島 由香恵さん 岐阜県立東濃実業高等学校出身

## 地域連携

### ワクワク・ドキドキ 目が離せない「地域連携センター」

今年度、名経の新たな試みとして、「体験型プロジェクト」と共に、「地域連携センター」が設置されました。「地域連携センター」には、中小企業振興・まちづくり分野と農業振興分野の教員が新たに着任し、産学官連携のもとに地域活性化に向けて新たな名経の展開が始まっています。その手始めとして、5月25(土)・26(日)に行われた「こまき産業フェスタ2013」に学生が運営するcafé MELanGEが出展。ブースでは、経済学部による安全マップの取り組みを展示しました。また、大学の地域連携による「体験型プロジェクト」も紹介。山下小牧市長と成瀬小牧商工会議所会頭がブースを訪問され、防災マップの導入を検討している小牧中学校長からも熱心な質問を受けました。

現在、犬山市は有数の観光資源がありながら、飛騨地方観光への通り道、「立ち寄り観光」で訪問者数は約40万人弱というのが現状です。ほぼ人口と同じくする滋賀県長浜市の観光客数は、優に200万人を超えています。また、観光客の滞留時間も長く、周辺市町村との連携を重視し、半日観光から滞在型観光へと変化してきています。その連携の一つに虎姫町(現在長浜市)の取り組みがあり、「日照りが続いたある日、一人の姫が堰に身を投げ雨乞いをした伝説」と長浜の黒壁(商家)の街並みをセトにした戦略は功を奏しました。このように、犬山市においても歴史的町並みを舞台に近隣の扶桑町・大口町・小牧市との連携を強化し、地方に残る民話や伝説をステージに上げ、近隣農家で作った商品を販売することによって、観光客に犬山温泉のホテルに滞在していただきたいと考えています。

また、歴史文化・地域資源のみならず、産業・教育に至るまで連携を拡大し、各々の持つ強みを統合したいと考えています。そのような「ワクワク・ドキドキ」を名経に通う学生の皆さんに味わっていただき、その体験を通して「考える力」を養っていただきたいと考えています。今年からカリキュラムとして開始された「体験型プロジェクト」と共に、地域連携センターの「地域連携プロジェクト」は、きっと目の離せないものになることをお約束します。

(地域連携センター長 傍嶋則之准教授)

### Profile

そばじま のりゆき  
同志社大学大学院政策科学研究科修了。(関西百貨店に入社後、「無印良品」の立上げに携わる。その後、中学・高校教員を経て中小企業振興の現場を経験。三井物産(株)では、出向で(株)福寿園(伊右衛門のお茶)の開発に従事。その経験を生かして、各県で地域開発と地域ブランドの開発に携わる。研究テーマは、まちづくりマーケティング、地域活性化、商店街対策、地域ブランドの開発。



来場者に「café MELanGE」をPR



小牧市長・小牧商工会議所会頭、名経ブースにも来場



「安全・安心マップ」のレクチャー



取材に応じ「名経ブース」をPR



犬山祭

## 「いつやるか? 今でしょ!」 林修先生が名経にやって来た!

名経オープンキャンパス2013 スペシャル企画として、6月9日(日)「いつやるか? 今でしょ!」のフレーズで一躍時の人となった東進ハイスクール現代文講師の林修先生による講演が行われました。

最初に冒頭から自分のことを「毒舌」だと語った上で、「本当に大学行きたいのか?」「自分のやりたいことがあるのなら、大学へ行く必要はない」という持論を展開。大学進学や受験勉強、友だち、コミュニケーションについて、歯切れのよい言葉でユーモアを交えながら語りかけ、来場者の心を惹きつけていました。

「どの大学へ行くかで人生のすべてが決まる。自分の人生の基礎を作るという覚悟を持って、大学へ行って欲しい」、「勉強とは何か?を考えると、自分に合った勉強法を見つける」、「学問は批判的精神を持ち、まず疑ってかかる。苦労しながら自分で考えてみる」、「自分の力で勝つていく、やる」と決めたらトップを目指し、自分の



熱の込められた林修先生の講演

可能性を精一杯伸ばす。背伸びしなければ背は伸びない」など、次々と力こもったメッセージを発信。会場を埋めつくした1,300名の来場者は、先生の一言ひとことにうなずき、時に声を上げて笑いながら、話に引き込まれていました。

最後は、「その気になったら、いつやるか? 今でしょ!」とお馴染みのフレーズで講演を締めくくり、会場は大きな拍手で包まれました。



体育館を埋めつくした来場者

## 日常から離れ、充実した時間を

「若者に期待すること」と題して6月8日(土)、本学講堂において昨年に続き中日新聞社長 小出宣昭氏をお招きして市民開放講座が開催されました。会場に響く携帯のコール音に、小出氏がポケットから自分の携帯を出して「今、講演中」とひと言。とたんに笑いが巻き起こり、会場は和やかな雰囲気になりました。

小学生に「将来の夢は?」と質問すると、「正社員になりたい」と答えた男の子がいたという話題にふれ、「若者の心の変化は、大人の責任」と一喝。「志が大きければ大きいほど、心が折れることはない。自分の周りばかりを見ていたのでは小さくまとまってしまう。遠くを見る目を養ってほしい」、「人生には正解がない。問題をどうとらえ、どう決着をつけるかだ」と呼びかけました。さらに、デジタルには途中を省略するという大きな落とし穴が



「充実した時間を…」と語る小出社長

存在すること、プロセスが人を賢くし、情報はアナログ化してはじめて心に響き、心を強くするという話に、来場者は熱心に耳を傾けていました。

また、「変化の時代にあっても、人間の本质は1000年経っても変わらない」と語り、学生に「4年間の自由時間に日常から離れ、時代を見て本を読み、正解のない問題に取り組む充実した時間を過ごして欲しい」と激励の言葉を贈り、講演を締めくくられました。



熱心に聴講される方々

## 発達臨床センターが共催する最新トレーニング・セミナー

5月18日(土)、本学名駅サテライトキャンパスにて、「健やかな生涯発達を目指した情報行動科学」をテーマに日本医療福祉情報行動学会第8回大会が開催されました。続いて一般社団法人「次世代リハビリテーション研究所」主催のセミナーが開かれました(本学附属発達臨床センター共催)。April Christopherson氏(MaxAchieve社CEO)が日本で初めて「米国における高齢者・認知症及び、子どもの発達支援の最新事情~Interactive Metronome®法の紹介~」と題し、特別講演をされました。19日(日)には、教育・保育・医療関係などの専門家が参加し、新しいトレーニング法の修得に努めました。



第8回大会会長 星野政明教授の挨拶



日本初の特別講演の様子

# 生き生きしたキャンパスづくり!

4つの学部と短期大学部、名経の「今」を探検。



開場前から長蛇の列!!

### キャンパス内に「いちむら幼稚園」

敷地内に附属幼稚園を併設 いつも身近に園児とふれあひながら実践力を養うプログラムをたくさん用意しています。



「犯人さがしゲーム」って誰が犯人?

「あだしジャンケン」ちゃんと勝てたかな?



川瀬くん(左)のナイスパフォーマンス

### 地域に開かれた大学

## 学外もキャンパス 「体験型プロジェクト」& 「共生社会の探究」



ワクワクする学びも...

### 教員と学生がとても近い存在



テレビクルーが名経を取材

### 「法学部学習支援室」

#### 法学部の魅力を伝えたい

私は、今回のオープンキャンパスに法学部の学生スタッフとして参加させていただきました。来学された方々の中には、学部ごとのブースはもちろん「法学部学習支援室」まで足を運んでくださった方もいらっしゃいました。「法学部学習支援室」では、教員をはじめ司法書士として活躍するOBがアドバイスをしました。私もこれまでの学生生活を振り返りながら、自分なりに感じてきたことをお伝えすることができました。

今回のオープンキャンパスで、少しでも法学部の魅力を伝えることができたのであれば幸いです。 法学部 3年 原田純弥さん 清林館高等学校(愛知県)出身



学習支援室で相談会(左から2番目が原田さん)

### うわさの“Mランチ”発見!

8種の野菜のチキンスープカレー&雑穀ご飯、レタスのサラダにデザートは豆乳プリンで493kcal 限定50食、うわさの“Mランチ”は瞬間に配布終了。みそかつ丼&ごろとん、丼家の手づくり弁当も大人気。



管理栄養学学生 オリジナルランチ

### 食品成分表を知ろう

～どんな食品にどんな栄養成分があるのか、それと健康の関わりは?～

「食品成分表」を取り上げ、健康維持・増進を図るためにどんな食品をどのようなバランスで摂ればよいのか? 食品成分表の解説や、食品成分表を基に「肉じゃが1人分」の栄養価を算出し、食を通じて人々の健康を支える管理栄養士の仕事について解説しました。



管理栄養学科の 体験授業

どのブースも大盛況



MC担当は白石くん、本日もグッドジョブ



Relay Essay 021 リレーエッセイ

近代オリンピックの理念を考える

巷(ちまた)ではリオデジャネイロの次、2020年の夏期オリンピック大会を再び東京で開催しようという動きが目立ってきています。

オリンピック憲章は、「オリンピズムは人生哲学であり、肉体と意志と知性の資質を高めて融合させた、均整の取れた総体としての人間をめざすものである」とその理想を高らかにうたいあげています。しかし、高邁な理念とは裏腹に、今時の招致活動の背景に「経済効果」を熱望する、その思惑が透けて見えるのは残念なことです。

今からほぼ2800年前に始まった古代ギリシャの祭典競技を苦勞の末に復活させたクーベルタンも、その晩年には「もし再びこの世に生まれてきたら、わたしは自分が作ってきたものを全部こわしてしまうだろう」と語りました。これはヨーロッパにナショナリズムの嵐が吹き荒れる戦間期に、彼の国際平和の理念が「政治」の力によって無残に踏みしだかれるのを(ま)の当たりにして発した言葉だといわれています。その「政治」が「経済」の僕(しもべ)となってしまった今日、もし彼が蘇(よみがえ)り、数10億ドルを稼ぎ出すグローバルなビッグイベントと化したオリンピックの実態を知れば、今度彼の口について出るのはいったいどのような言葉でしょうか。

短期大学部 保育科 船井廣則教授

競技場で活躍する自国選手に熱烈な声援を惜しまぬ「にわかナショナリスト」は、どこにでも見受けられます。こうした風景を見るにつけ、グローバル化が進む中で「想像の共同体」として乗り越えられるはずであった「国民国家」も、依然としてその命脈を保ち続けていることがわかります。ここで一度、スポーツの持つこの「ぞら恐ろしいような力」を冷静にじっくりと考えることも、今のわたしたちにとって必要ではないでしょうか。

Profile

ふない ひろのり  
東京教育大学大学院体育学研究科 修士課程修了。体育学修士。著書に「バスケットボール文化に触れる」「スポーツする身体とは何か」などがある。研究テーマは、「スポーツにおける歴史叙述の諸問題について」。



●リレーエッセイ 次回は、法学部 近藤久雄教授です

おもしろ授業

ファッション・ブライダルの仕事

短期大学部 キャリアデザイン学科 光松佐和子教授

「ファッション・ブライダルの仕事」では、業界で活躍している卒業生が講師として登壇しています。4月には2回にわたって「ネイルアーティストの仕事」を紹介しました。講師は土岐市でネイルサロン「メランジェ」を主催する、仁科亜子さん(1996年卒)。つねに新しい発想でデザインを手がけるだけでなく、日本ネイリスト協会の認定講師として専門学校などで教鞭をとり、ネイリストの育成にも貢献しています。

学生たちは爪の構造や健康に関する講義を受けたあと、美しいネイルアートが完成するまでの工程を間近で見学。全国大会でも優勝経験のある講師の高度な技術に魅了され、身近な先輩の輝かしい人生そのものにも刺激を受けた有意義な時間となりました。



平成24年度卒業生 就職状況

個別進路相談で就職をサポート

本学では、すべての学生が目指す進路に向けたキャリア形成、就職支援を行うことができるよう、多様なサポートを提供しています。また、学生に対して専門的スキルを有するスタッフが個別にきめ細かい進路相談を行い、就職に関する情報を提供。その結果、多くの学生が地元へ貢献する地域密着企業に就職しています。特に製造業、卸売業、小売業への就職率が高く、保育を勉強する学生にいたっては100%の就職率を誇っています。

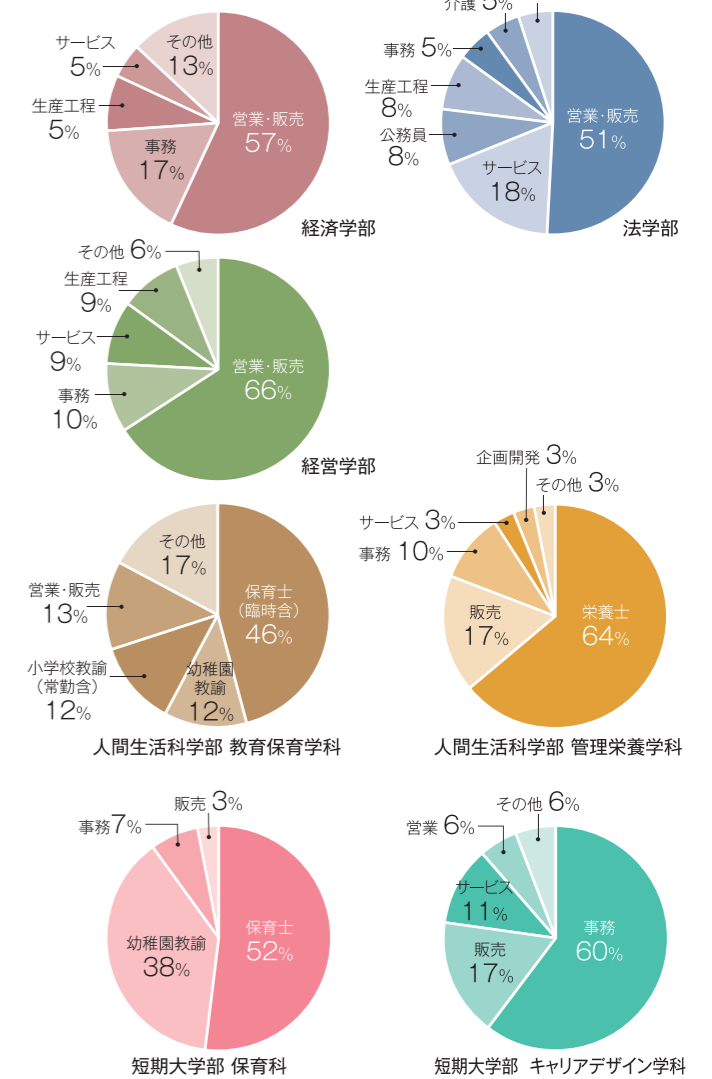
平成24年度就職決定率

大学	就職決定率	短期大学部	就職決定率
経済学部	89.1%	キャリアデザイン学科	86.9%
経営学部	85.3%	保育科	100.0%
法学部	85.1%	平均	91.1%
人間生活科学部 教育保育学科	100.0%		
人間生活科学部 管理栄養学科	88.6%		
平均	88.1%		

就職先一覧 (平成24年度)

- |   |   |  |
|---|---|--|
| 愛知県公立小学校<br>防衛省自衛隊<br>愛知県立名古屋豊学校<br>愛知商工連盟協同組合<br>小牧市教育委員会<br>財団法人岐阜健康管理センター<br>株式会社ベネッセスタイルケア<br>貝沼建設株式会社<br>株式会社レオパレス21<br>中建設株式会社<br>カネ美食品株式会社<br>ラブリークイーン株式会社<br>株式会社マルゼン<br>株式会社畔柳工業 | 大和冷機工業株式会社<br>日本紙工業株式会社<br>サンレジャン株式会社<br>トヨタカラー愛知株式会社<br>株式会社アオキスーパー<br>株式会社ハロー<br>株式会社扇港電機<br>株式会社名紳<br>アーク引越センター株式会社<br>株式会社東海交通事業<br>株式会社サカイ引越センター<br>日本郵政グループ<br>株式会社損害保険ジャパン<br>日本生命保険相互会社 | 株式会社トヨタレンタリース名古屋<br>三井不動産リアルティ株式会社<br>株式会社グローバルキャスト<br>スガキシステム株式会社<br>タリーズコーヒージャパン株式会社<br>株式会社名鉄犬山ホテル<br>日清医療食品株式会社<br>中部エアゴサービス株式会社<br>サンネットワーク中部株式会社<br>株式会社アクセル<br>近藤産興株式会社<br>中京総合警備保障株式会社 |
|---|---|--|

●職種別進路状況



活躍する卒業生

会社が教えてくれた、ポジティブ思考

私は現在、日研フード株式会社の調味料開発課で働いています。日研フードは、天然調味料を通じて世の中の人々の健康に貢献する商品を開発する会社です。私はもともと食べることが大好きなので、食を通じて自分の好きなものを作り出すことができる今の仕事に就けて夢のようです。また、この会社の素晴らしいところは、全体でポジティブな思考を大事にしているところです。せっかく何か行動するなら、ネガティブな考えで取り組むより、ポジティブな考え方で取り組んだほうが絶対うまくいくことを教えられました。この職場環境は、自分にとっても良い刺激を与えてくれ、自分を成長させてくれる場所になりそうだと感じています。

また、社内には挨拶が徹底されていて雰囲気が良く、まわりの社員の方々も明るいので、毎日楽しく仕事をさせていただいています。

日研フード株式会社  
HOANG LE MAI  
(ホアン・レー・マイ)さん  
経済学部 2013年卒業



同僚と自宅でホームパーティー(左端がマイさん)

夢中に過ごした学生生活から、希望の職種SEへ

私はNTT西日本の法人営業部でSE(システム・エンジニア)として働いています。ここでは企業様の社内ネットワークを構築する業務を行っています。SEとしてはまだまだ未熟ですが、さまざまなセミナーに参加したり自学自習でスキルアップを図り、自分が設計したネットワークをお客様に提供することを目標にがんばっています。

在学中はサークルを作り活動したり、文化祭を企画したり、大好きなスノーボードやサーフィンをしたりと常に何かに夢中でした。社会人になると、なかなか自由時間がなくなります。学生時代に時間がなければできない経験をたくさんしておいてよかったと思っています。それが就職活動の話の種にもなりました。皆さんも、今しかできないことをたくさん経験してください。

NTT西日本  
(西日本電信電話株式会社)  
伊藤 豊大さん  
経済学部 2013年卒業



オフィスにて

## チャレンジする「新生サッカー部」

サッカー部は強化指定クラブとなり、2013年から本格的に活動を開始しました。部員は2年生1名以外は全て1年生で、全て一からのスタートですが、新たな歴史を築き上げようと、一人ひとりが高いモチベーションを持って日々練習に励んでいます。そして、仲間とともに夢にチャレンジしながら、

考えて行動ができる選手になれるよう日々努力を続けています。

これからのFOOTBALL LIFEをより良いものにするために…。スポーツマンとしてだけでなく、社会の一員としても責任ある行動と発言ができる新生サッカー部員でありたいと思っています。



### ～名ディフェンダーがコーチに就任～ 戦う姿勢、勝負へのこだわりを伝える

自分のプロ1年目を振り返ってみると、「今の学生とは少し違っていたな」と、思うことがあります。選手たちに何より伝えたいことは、「真剣にサッカーを楽しむ」ということ。「本当にサッカーが好き?」と、自分自身に問いかけてみる。そして、戦う以上は、勝負へのこだわりを持って欲しい。技術的に相手より勝っていたとしても、「勝ちたい」という気持ちが上回った方が勝利を手に入れることができるということを、心と体で理解して欲しいと思います。選手たちには真剣に向き合い、怒り、叱ります。時にはふざけあつたりもしますが、スポーツマンとしての礼儀にはうるさく言います。4年間責任を持って預かっている以上、当然のことだと思いますし、将来社会人となるためには必要なことだと思います。

監督の理想とするチームづくりをサポートするのがコーチとして私の役割。そのために、あらゆるサポートをしていきたいと思っています。これからも、名経サッカー部の応援をよろしくお願いします。

(サッカー部コーチ 白井博幸)

#### Profile

しらい ひろゆき  
1974年静岡県出身。1996年U-23サッカー日本代表に選出され、粘り強い守備で28年ぶりのオリンピック男子サッカー出場に貢献。アトランタ五輪男子サッカー日本代表にも選出され、グループリーグ初戦の後半30分に交代出場。ブラジル代表を1-0で破った「マイアミの奇跡」を経験。  
1993～1996年清水エスパルス、1997年ヴェルディ川崎、1998年セレッソ大阪、2000～2005年湘南ベルマーレ、2006～2007年ベガルタ仙台、2008年FC琉球、2009～2012年までFC琉球のコーチを経て2013年本学サッカー部のコーチに就任する。



試合を前に円陣を組み気合いをいれる



闘志むきだしてボールを奪う



ともに支え合う白井コーチ(左)と阿部監督(右)

## 剣道部

### 大会2連覇に向けて

5月12日(日)に行われた「第60回東海学生剣道選手権大会」「第45回東海女子学生選手権大会」に男子9名、女子7名が出場。健闘したものの全国大会への切符は逃してしまいました。25日(土)・26日(日)には、「第58回西日本学生剣道大会」「第28回西日本女子学生剣道大会」に出場。男子は3回戦で惜しくも破れ、女子は2回戦で強豪の鹿屋体育大学に2対1で負けましたが、今後に期待が持てる戦いぶりでした。6月16日(日)の「第56回東海学生剣道新人選手権大会」「第36回東海女子学生剣道新人選手権大会」では、男女ともに健闘しました。

9月に行われる「第60回東海学生剣道優勝大会」「第30回東海女子学生剣道優勝大会」では、男子は2連覇、女子は2回目出場をめざします。夏には合宿し、剣道部一丸となって稽古を重ね、目標達成に向け頑張ります。



## ラグビー部

### 念願の1部リーグ昇格をめざす

ラグビー部は「東海学生ラグビー連盟」に所属しています。同連盟は1部リーグから4部リーグで構成されており、私たちは現在、2部リーグに在籍しています。昨年度は接戦を落とし、2部リーグ4位(6チーム中)の戦績で終わり、悔しい思いをしました。今年度は、念願の1部リーグ昇格を果たせるよう、9月中旬から始まるリーグ戦に向けて日々練習に取り組んでいます。

私たちの活動を支援して下さっている大学、保護者、OBの方々の期待に応えられるよう、今後も頑張りたいと思います。



## 名経祭実行委員会

### 自発的に名経祭を創っていききたい

第11回名経祭では、テーマに「下剋上」を掲げました。このテーマは、「過去の名経祭すべてを凌駕し、昨年度の名経祭を運営した自分たち自身も打ち倒し、新しい偉業を打ち立てる」という、実行委員会役員の意気込みが詰まっています。そして現在、今までにない企画の準備を進めています。大学祭とは、学生が主体となって創っていくお祭りです。「やってくれる」「やらされている」という受け身の姿勢では楽しいはずがありません。「やる!」「やりたい!」という自発的な姿勢が楽しみを生み、名経祭を創ると私たちは思っています。どうぞ10月12日(土)・13日(日)の名経祭にご期待ください。



## 硬式野球部

### 愛知大学野球春季リーグで4位に

硬式野球部は、「平成25年度 愛知大学野球春季リーグ戦2部(A)」を5勝5敗、4位という成績で終えました。昨年秋に行われたリーグ戦と同じく、チーム打率が低調で投手陣に負担がかかったことから、次の秋季リーグ戦までに打線の強化を図りたいと思っています。また、「1～2年後には1部昇格!」という目標に向け、選手全員が一丸となって練習に励み、目標の達成をめざします。



## 男子バスケットボール部

### 6月、九州国際大学に勝利!

今年は強化部として発足して初めて1～4年生が揃った年です。春のトーナメントでは、新しいチームということもあり、課題も多く見つかりましたが、チーム一丸となって頑張りました。6月の「西日本学生バスケットボール選手権大会」では、延長の末に九州国際大学に勝利するなど、チームとして大きな成果が得られた大会となりました。

これからは、8月から行われるリーグ戦に向けて課題を克服し、体を鍛え直し、日々努力したいと思います。また、今年こそインカレ出場を目指して、今まで以上に頑張っていきたいと思います。応援よろしくお願いします!



## 犬山南高校がいちむら幼稚園で交流活動

### 地元の施設で清掃・交流活動

5月21日(火)、愛知県立犬山南高校で開校以来36年間続く伝統行事である「地域交流活動」が開催され、保育士を希望する生徒が多い3年4組の高校生たちが本学附属のいちむら幼稚園に来園しました。生徒たちは、園児たちと一緒に粘土遊びや体操、植物採集を行い、一生懸命リレーの練習をする年長組の園児たちに声援を送るなど、交流活動を行いました。その内容は、6月1日付けの「尾北ホームニュース」で紹介されました。



植物採集をする園児に話し掛ける男子生徒

### 地域の絆を深めた、世代を越えた交流

同じ地域に暮らすものが世代を越えて互いに知り合うことは、非常に大切なことだと思います。お互いの気持ちや考えを理解し合うことで心がつながり、地域の絆が深まるからです。地域を誇りに思い、地域を大切にしようとする心が育つからです。園児も含めた若い世代が同年齢の横の繋がりがだけでなく、異年齢の縦の繋がりができることが大変意義のあることだと思います。今後、さらなる交流活動に取り組んでいきたいと思っています。(いちむら幼稚園 鈴木文雄園長)



リレーの練習をする園児に声援を送る生徒たち

## 犬山南高校の3年生が大学講義を体験

6月4日(火)、愛知県立犬山南高校の3年生207名が本学を訪れ、大学の講義を体験しました。この訪問は、大学の講義を実際に見て進路を考える参考にしておくと同校が4年前から総合学習の一環として全校生徒を対象に実施しているもので、公立高校では珍しい取り組みです。

「お金の側面から見る企業の経済活動」「日本の領土問題」「日本の食の歴史」「ストレスの心理学」「子どもの本っておもしろい」「就職対策いつやるの? 今でしょ!」「身近な食を通じて経済地域を考えよう」の7講座を用意し、高校生たちは受けたい講座を1つ選択して受講しました。

「お金の側面から見る企業の経済活動」を受講した澤井一輝さんは、「一つの企業には、人や物やお金が必要な要素になることがわかりました」と語り、「日本の領土問題」を受講した宮嶋愛奈さんは、「今日の講義体験で自分

なりに領土について意見を持つことができました」と感想を述べていました。なお、1年生、2年生の講義体験は11月に行われる予定です。



講義に聞き入る生徒たち

## 高蔵中学校がいちむら幼稚園で「生教育」の体験学習

6月13日(木)、名古屋経済大学高蔵中学校の2年生33名が、総合学習フィールドワーク実施のため、いちむら幼稚園にやってきました。これは、「生教育」の一環で、幼児と直接ふれあう体験を通して生命の大切さに気づき、自分たち一人ひとりの心の成長を目指す取り組みです。4~5名ずつのグループになり、各クラスへ入って活動しました。生徒たちは、前もって準備してきた教材を取り出し、園児の前でお手本を見せながら、わかりやすく説明しました。ジャンケン列車、ボウリング、輪投げ、お絵かきなど、園児が興味を持つ内容のものが多く、園児たちは大きいお兄さん・お姉さんたちと一緒に学んだり遊んだり



お絵かき

しながら、楽しんでいました。終了後、ほとんどの中学生が、かわいい園児とのふれあいに感激し、喜びに満ちあふれた表情をみせていました。



色水で輪投げ

どんぐり山の探検

### ~市邨校~

## 寺本さん NHK杯優勝 世界選手権代表に決定

ロンドンオリンピックでの大活躍が印象に新しい、高校3年生の寺本明日香さんが、4月の体操ワールドカップ東京大会での優勝に続き、新たな栄冠を勝ち取りました。6月8日(土)・9日(日)に東京の代々木第一体育館で行われた第52回NHK杯で、寺本さんは2位の笹田さんとの接戦を0.350点差で制し、優勝に輝きました。寺本さんの「失敗しない」精神的な強さは高く評価され、5月の全日本選手権で4位に終わった雪辱を見事に果たし、9月30日からベルギーのアントワープで開催される、世界選手権代表の座を射止めました。

2016年に開催されるリオ五輪での活躍を目標に掲げる寺本さんに、今後もお声援をお願いします。



撮影 Michi ISHIJIMA

## 軽音楽部 全国大会で優秀賞

6月9日(日)、軽音楽部で活躍するバンドが大坂城野外音楽堂で行われた「第6回全国高等学校軽音楽大会」のオリジナル部門に出場し、優秀賞を獲得しました。この大会は、大阪を中心とした大会ですが、予選でシード校に選ばれ、上位入賞が期待されていました。しかし、残念ながら全国制覇の達成は、今後に持ち越されることとなりました。今回出場したバンドは、各種コンクールで高い評価を得ており、メンバーが3年生となる今年は最後のチャンス! どうぞ、引き続き応援をお願いします。



全国高等学校「軽音フェスティバル」のステージ

### ~高蔵校~

## 「日本文化を守り続ける誇りと伝統」—書道部

書道部は40年以上の歴史を持ち、週2回火曜日と金曜日に練習をしています。毎年秋に開催される「文化祭」「全国臨書展」「区民展」に出品するために、臨書中心に練習をしています。

女子校時代は常時1クラス分、最大50名の部員が名札をつけて書道室いっぱいになり、ぶつかりそうになりながら練習していたことを懐かしく思い出します。

現在の部員は約10名で、高校の特進・進学・商業と中学部から入部してくれています。各コースの状況に合わせて、個人の目標を決め、こつこつ練習をしています。7時限授業の後や簿記検定の補習後に書道部に来るため、孤独と怠惰の克服など、精神面での強さが求められています。

今後も仲間と切磋琢磨して技術



### 市邨中学校教育講演会

## ~からくり人形師、玉屋庄兵衛氏を迎えて~

5月9日(木)、市邨中学校の教育講演会が開催されました。今年度は、からくり人形師の玉屋庄兵衛氏をお迎えして「からくり人形」についての講演をしていただきました。これは生徒のみならずにとっても貴重な体験となりました。人の手を離れた人形が、あたかも生きた人間のような動きをする。全校生徒一同、その不思議さに驚き、引き込まれていました。

「本物」の匠の技を間近に見ることができた生徒一同は、ただ感心するだけで

はなく、そのお話しの中から、先人たちの知識や文化・伝統を守りつつ、人類の文明を発展させるために勉強し続ける事の大切さ、尊さを学ぶことができました。とても貴重な体験となりました。

この取り組みは翌日の中日新聞にも記事として取り上げられました。



平成25年5月10日 中日新聞より



書に真剣に向き合う生徒